

## 暑熱対策について

近年、十勝では、7月から30度を超える真夏日が多くなっています。暑熱ストレスの影響は、気温20度以上から現れ、「呼吸数の増加」、「反すう回数の減少」、「蹄周辺の赤み」として現れ、「乳量の低下」、「乳脂肪率の低下」、「受胎率の低下」などの影響が出ます。この影響については、気温が低下しても2~6ヶ月以上続くと言われてしています。

### 1 暑熱ストレスについて

乳牛の暑熱ストレスは、温度と湿度が深く関係しています。一般的には不快指数（THI）で示され「72」を超えると暑熱ストレスを感じ始めます（表1）。

牛舎内に温室計や市販のヒートストレスメーターを設置し、暑熱対策を行う目安にしましょう。

表1 乳牛の不快指数（THI）

		H(相対湿度、%)				
		10	30	50	70	90
T ( 温度、 ℃ )	21	64	65	67	68	69
	24	67	68	70	72	74
	27	70	72	75	77	80
	30	72	75	78	81	84

不快指数が「72」・・・暑熱ストレスが始まる（注意）

不快指数が「77以上」・・・乳量が急激に低下する（危険）

### 2 管理による暑熱対策

- ① 放牧地やパドックには日陰の場所を確保し、可能な限り朝・夕の涼しい時間帯に放しましょう。
- ② トンネル換気や扇風機は、風が確実に牛体にあたるようにしましょう。  
(※首から肩にかけて風が当たるようにすると効果的です。)
- ③ 除湿も兼ねて、夜間も換気を続けましょう。
- ④ 密飼いを避け、敷料の交換を早めにおこなって湿度を下げましょう。
- ⑤ 水槽をこまめに掃除して、いつでも清潔で冷たい水が飲めるようにしましょう。

### 3 飼料による暑熱対策

- ① 早朝や夜間の涼しい時間帯に給与量を多くするとともに、給与回数、掃き寄せ回数を増やし、採食量を高めましょう。
- ② 新鮮なサイレージの給与、又は、食い込みの良い粗飼料を給与し、採食量を高めましょう。
- ③ 高温時は発汗などによりカリウムやナトリウム、マグネシウムなどのミネラル類の要求量が増えます。塩や重曹を1~2割程度増給しましょう。
- ④ TMR を加水し、調製時の水分を70%前後にする事で、選び食いを防ぐようにしましょう